



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(19-3)

Aug. 2019

金煥・朴貞玉

「神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)

二〇一九年も上半期が過ぎ、7月の上旬になりました。尊いお祈りと共にお支え下さる皆さまに三位一体の神の御恵みをお祈り申し上げます。今、日本に戻っておりませんが、過ぎた5月、6月の生活と活動をご報告いたします。

1. 再会の喜び

二〇一六年10月に南アフリカに着き、小さいながら「和解の務め」と名付けた宣教の働きを開始してからあつという間に3年が経ちました。今年5月がそのビザの満期でしたので、5月20日に現地を出発して、韓国のソウルを経由し、5月29日に東京に到着しました。3年の間、孫ジョシユアは成長して来年からは小学生となり、2番目の孫愛ちゃんは今後6カ月目です。笑顔で祖父母を迎えてくれました。以前奉仕をした足立愛の教会も喜びをもって私たちを迎えてくださいました。宣教の旅を終え、帰って来たバルナバとサウロを迎え入れたシリアのアンテオケ教会が思い出されました。やはり肉身の家族と霊的な家族(教会)との再会は嬉しいものでした。



2. 緊張の時

韓国に到着した後、健康診断を知人の病院で受けました。ビザ申請に必要な健康診断です。時間的な節約のために韓国で受けました。知人の医者は超音波検査が専門です。いくつかの検査を行った後、心配そうな顔で言いました。「他の部分は問題が見えないけど、肝臓の方に暗い影がはつきり見えているよ。ちょっと不安だね。」その瞬間、私は緊張感を覚えました。予定通り日本に戻り、早速病院に行き、精密検査を受けました。MRI、血液検査、尿検査などを受けて、結果を待ちました。担当の医者は検査の結果資料をみながらこう言いました。「私の意見では、肝臓に特に異常がないように見えます。影は脂肪の固まりだと思います。」つまり、脂肪肝だということだということです。「主よ、感謝します。今から健康管理にもっと気を付けます。」安堵感と共に感謝の祈りが心から出て来ました。



足立愛の教会の向島給食伝道に参加して

3. 訪問と奉仕

日本に帰国した後、挨拶の電話を入れさせて頂きました。そうしますと、次々とお招きを頂き、自然に訪問と報告のご奉仕をさせて頂くことができました。足立愛の教会を始め、吉川福音教会、座間キリスト教会、枝川愛の教会、つくば希望長老教会、徳丸町キリスト教会などの諸教会を毎週主日に尋ね、宣教報告と礼拝奉仕をさせて頂きました。主の日以外には、新潟山形宣教区の教師会、新潟福音キリスト教会の南アフリカ牧場、関東宣教区の教師会を訪問させて頂きました。そして足立愛の教会が毎週火曜日に行っている向島給食伝道にも3回参加しました。それは19年前(二〇〇〇年)から始まったもので、今ではもっと整えられた形で行われていました。そこに集まっている多くの兄弟姉妹たち(私たちはホームレスの方々をそう呼びます)は、たとえ、一般の教会には出席しなくてもイエス・キリストを信じていると受け止めております。それが彼らの顔と態度で現れています。ある兄弟はその伝道を通してイエス・キリストを信じ、ゴスペルソングの作詞もしました。それを足立愛の教会のT長老が直ちに作曲して歌を造りました。

4. 祈りの課題

皆様の尊い、信仰の執成しを宜しくお願いいたします。

- ① 南アフリカ共和国へのビザが順調にありますように。
- ② 青少年、青年たちのための「国民高等学校」が着実に準備され、順調にスタートできるように。
- ③ 「和解の宣教集会」の発展のために。
- ④ 宣教支援会の立ち上げを準備しております。和解の務めのために適切な支援体制が整えられるように。
- ⑤ 9月に予定されている第二期派遣が祝福されるように。



クリスチャンになり、ゴスペルソングの作詞もする兄弟と共に